

るるすあるは map 2016.10
2017.9

THE DOGS BARK, BUT CARVAN MOVES ON

いろいろな
X デバイスで紹介
してもらいまは

アルコール依存症へん

保健室へ
絵本を
届ける
プロジェクト

るるす
あるは
たくさん
コラボ

リリーの
セミナー

みんなの絵本を
みんなの
絵本を

がんばりまは

子ども情報
ステーション

110-カ
シャミン
るるす
あるは
チャリティ
企画

ソーシャル
ホスター展
電通

ライブポイント

るるす
あるは
Part 2
原画展

生きる
冒険地図

伝えるカード
ロ-ワ3070
るるす工房の
人豆

とびいたて
世界の子どもたちへ

リアル内サ #11111111111111111111

大学の
子ども
会

50万人
2周年
イベント

インフォメーション

家族のこころの痛みを
子どもに伝える

心を
届け

感覚用紙

Warm Blue Day

50万人
2周年
イベント

講演
いっしょに
こころから
お声かけ
いただきます

【資料2】声 ーたくさんの声をありがとうございます

ウェブサイトを通してアンケートを行い、127人の方から回答をいただきました。

「子ども情報ステーション」への感想など

*掲載しているのは一部です。趣旨がかわらない範囲でコメントを短くさせていただいたものがあります。

・子ども向けのツールなどがあるのが、他にはあまりないので良いと思います。また、高校大学と世界が広がっていくイラスト（広い世界が待ってるし）や絵本などは、子ども支援のボランティアのときだけでなく、自分の子ども時代のモヤモヤをほぐす一つにもなりました。

・保健室にダウンロードしたぶるす工房のものを掲示したところ、精神障害を持つ生徒はもちろん、落ち込んで来室した生徒の目にとまり、力になっていた。ある生徒はスマートフォンの待ち受け画面にして、前向きな気持ちをもたらしているようでした。

・子どもが気持ちを表現できるようになって来た。sosを出していいと言う気持ちになってくれつつある。

・私の精神障害で子育てに困った時に頼れる場所があることを知り、安心した。病気への理解が深まった。

・子供だけでなく自分も癒されましたし、パートナー（＝片方の親）の立場として子供をどう支えていったらよいか、その考えかたなどがとても参考になりました。

・患者さんとそのお子さんへの説明で、「イラストで病気や障がいなどについて知る」のダウンロードファイルに沿って使用させていただきました。面談日の前から、患者さんと何を説明して何を伏せるか一緒に打ち合わせができました。説明用紙を準備する手間も省けたばかりでなく、疾患概念に基づいた親しみのわくイラストがとってもキュートで気に入っています。お子さんにも実際に紙を渡して、食い入るように見てくれましたし、チェックボックスなど参加型の説明になりました。その場では伝えきれなかったことも、紙を持ち帰っていただくことで、困った時や興味がわいた時に子ども情報ステーションのリンクをたどってくればと淡い期待を抱いています。

・自分の生きずらさ、不安定な精神状況とのつきあい方、自分を知ることができる。子供のころの家族との関係、記憶から自分責めをしない方向へもっていけるようになった。

・精神障害の親を持つ子供として、自分を受け入れられるようになった。支援者でもあるので、家族看護に力を入れたいと思うようになった。

・不登校教室に紹介したところ、すぐに絵がとても素敵で、かつ役立ちそうな内容で喜ばれました。どんな気持ちも○など、自分自身、読んでいて救われました。発信してくださる人がいて、救われる人は私だけではなくたくさんいると思います。

・自分の子ども時代にプルスアルハに出会いたかった

・平易な言葉で情報が書かれているため、子どもたちや大人たちに実際にどのように説明したらよいか、とても参考になりました。ホームページや絵本も、紹介させていただいております。大学の学生が、サイトにアクセスし、さらに、絵本を購入して読んだことで、うつ病の親を持ったつらさを、はじめて「人に話してもいいんだ」と思えたそうです。「こんな家族がいるんだ」と理解する学生や、「自分の親もアルコール依存で、今は離れているからいいけれど、前はとてもつらかった」「自分の親もうつ病で、もっと早くこういう絵本を知りたかった」など話す学生がいます。子ども達が、自分自身について書かれた本だと思えることは、とても素晴らしいと思いますし、一人じゃない、話してもいい、というメッセージになると感じています。

・絵という手段を用いた情報の質が高かった。こころのケアの講座やグループで深呼吸やセルフケアをしてもらう際に、ぶるす工房からダウンロードして大人の参加者に使ってもらった。それまで言葉によるコミュニケーションに限界を感じる事があったが、ちあきさんのほんわりしたイラストに提供する側がふんわりできた事。結果、参加者にも同様の空気が伝わり、相談の場やグループがほぐれるのにとっても役立った。

・継続的な活動、支援をつづけてください。サイトが存在していることが心の支えになっています。今、生きていてよかったと思える情報ステーションです。子供のつらさを少しでも大人がきづけるサイトとして感謝しています。

絵本をみての感想など

・夫の病気を何とかしようと焦る気持ちが無くなり、治るのをゆっくり待とうと思えた。学校に行きたくないという子ども達の気持ちを受け止められるようになった。

・絵本が、自分の感覚過敏のことを周りの人に知ってもらい、理解してもらおうための助けになった。とても感謝しています。

・中学の時親が離婚して、すごく落ち込んでいて自分の体調も悪くなって…。学校に行っても1日に1回は保健室に行っていました。そんな心も体もボロボロの時、保健室の先生が「僕の冒険の始まり」を私のために買

ってきてくれました。読んだらすごく私の経験と似ていて私だけじゃないんだなと思いました。この絵本の読み聞かせもYouTubeに上げてほしいです。この絵本に出会えてよかったなと思いました！

- ・自分自身の幼い頃の体験が癒される気がした
- ・一見意味がわからない子供の言動が理解しやすくなり、少しだけ子供に寄り添える様になりました
- ・子供のころの自分が悲しかったことを大人になった今、きづくことができ、自分を大切にしようと思えた。よく生きのびたと思う。自分のような経験をしている子供が少しでも早く、いま、自分の状況を責める苦しさから転換できる絵本がきっかけとなるよう絵本の存在を周りにも伝えている。
- ・子どもが置かれている状況が良くわかり職場でも関心が高いが、当事者である子どもに見せるかどうかという段階になると、(小さな)子どもが置かれた状況や家族関係が深刻すぎて、情報提供だけでは済まされない。情報提供してあなただけが苦しんでいるのじゃないということを伝えて、じゃあその次はどうしたら良いのかという思いがぬぐい去れず躊躇してしまう。
- ・昔の自分を思い出し、一時的にトラウマになった。
- ・色調、筆のタッチ等から、色んなイメージネーションが湧く。相談者に紹介する事もあるが、一番は、支援側の疲弊、困惑、等様々なマイナス感情を、絵本を見ることで解放できる事。特に、自分の親の特性が幼少期からの自分に少なからず影響していたんだな、と実感できる事。頭ではなく、マインドのところ。

改善点、ご提案 *いただいた全てのご意見です。ありがとうございます

- ・子ども同士の相談や、子どもからの相談を受け付けるようなコーナーがあれば、と思います。情報を伝えた中学生からもっと相談できる、わかってくれる人がいるホームページじゃないので使えない、と言われました。
- ・子どもたちがアクセスしやすくなると良いと思います。子ども向けのSNSなど。
- ・YouTubeの動画の字幕が、ひらがなか、ルビがあったら嬉しいかもです。子どもが低学年なので。
- ・ファイルをA4で印刷しているのですが、せっかくのイラストが少し小さく、文字もつぶれてしまいがちなのが、もったいないと感じます。あとちょこちょこ誤植が気になりました。
- ・ぷるす工房のダウンロードが何度試しても正しいサイズに印刷されません。
- ・ダウンロード出来るものの見本が小さくて、何が書いてあるのかよく分からない。一つずつ開いて確認するのが少し手間。
- ・どこにどんな情報があるのか、必要な情報の見つけ方
- ・もっと困っているときにこのサイトを知りたかった。広報活動をもう少しして周知をはかり、今困っている子どもたちもより利用できるようにしてほしい。
- ・子ども～大人、高校生世代に向けたソーシャルスキルや生活の知恵を盛り込んだダウンロード集
- ・ダウンロードのカードのところ、 「話せない」「言葉にならない」「言葉にできない」「壊れそう」のカードがほしい。
- ・気持ちを表現しているイラストのカードや、自分の世界は広がっていくというイラストを発売していただけたらと思います。
- ・情報の可視化の仕方が素晴らしいと思うので、子供に役立つツールなどがもっと充実すると嬉しいです
- ・イベントとかを色んなところと連携してやってみては

回答者の年齢やお立場、役に立ったコンテンツランキングとともに、声はサイトでも紹介しています。

今年は、昨年はなかった、高校生からの回答が1件ありました。ありがとうございます。

》「子ども情報ステーションのご利用アンケート 2017」の結果と声を紹介します

<https://kidsinfost.net/2017/08/02/questionnaire-3/>

*

掲載しきれなかったたくさんの方の声、サポーター登録時の応援メッセージ、イベントで直接伝えてくださった声など、多くの声に活動を支えていただきました。本当にありがとうございます。

前期にひきつづき、「自分の体験や感じ方はちがった」という声もありますが、それらの声は直接は届かないことが多いです。届かない声を想像し、多方面にアンテナを張りながら、真摯に活動に取り組んでいきたいと思えます。多様性に対応できるように、ぷるすあるはとしても他団体との連携を通して、選択肢をふやしていきたいと思えます。

》 応援メッセージ

<https://pulusualuha.or.jp/support/supportmessage/>

》「子ども情報ステーションのご利用アンケート 2016」の結果と声

<http://kidsinfost.net/2016/08/11/questionnaire/>

》プルスアルハの絵本へ寄せられた「みなさまの声」

http://kidsinfost.net/utility/pulusualuha_picturebooks/voice/

【資料3】 活動実績詳細

1.メディア掲載

- ・2017.9.21 ママリ(mamari)「私のママはどうしたの？」精神疾患に悩む親がいる子を支えるには「精神疾患を抱えたママの思いと支援」
- ・2017.9.1 毎日新聞埼玉版「子ども情報ステーション2周年」
- ・2017.7.12 沖縄タイムズ「絵本でアルコール教育」
- ・2017.6.24 信濃毎日新聞「依存症 子ども期に目を」
- ・2017.6.26 朝日新聞「2分の1成人式」
- ・2017.6 季刊Be! 特集/みんなの「感覚」でこぼこ図鑑
- ・2017.6.1 ナーシングスター「こころの健康を伝える本」
- ・2017.5.19 毎日新聞埼玉版
- ・2017.5.1 福祉新聞「一人じゃない」伝えたい 精神障害の親と子を応援
- ・2017.4.6 NHK Eテレ ハートネットTV「精神疾患の親を持つ子ども」 *絵本と原画展の様子が紹介されました
- ・2017.3.3 日本経済新聞夕刊「一人じゃない 声かけを」
- ・2017.4 月刊福祉「インフォメーション」子どものきもち絵本原画展Part.2
- ・2017.3.24 週間金曜日「子どものきもち絵本原画展「希望の光届いて」」
- ・2017.3.14 NHK首都圏ニュース「子どものきもち絵本原画展」
- ・2017.3.13 テレビ埼玉ニュース「子どものきもち絵本原画展」
- ・2017.3.7 朝日新聞・記者有論「親の精神疾患 子どもの痛み、目を向けて」
- ・2017.2.16 日本経済新聞「親が精神疾患 子に支援の輪」
- ・2017.2.13 学研プラス『発見！体験！工夫がいっぱい！ユニバーサルデザイン』 「コミュニケーションカード&スタンプ」
- ・2017.1.1 地域保健 第48巻 第1号「絵本を通して、子どもに安心と希望を届けたい」
- ・2016.12.15 江戸川子どもおんぶず「絵本の中の素敵なおとなたち」に『お母さんは静養中』の『ゆらお姉さん』が掲載
- ・2016.12 We205号「ひとりじゃないよ」と伝えたいー 生きづらさを抱えた親と子を応援する「ぷるすあるは」
- ・2016.11.11 朝日新聞朝刊「アルコール依存の親いる子支える 学校に絵本 NPOが取り組み」
- ・2016.11.2 とうきょう子育てスイッチ共育者インタビュー「絵のちから」で親が病気を抱えている子ども達に寄り添う。
- ・2016.10.22 しんぶん赤旗「ひと」（細尾ちあき）
- ・2016.10.13 sore「子どもたちの名前のないしんどさに焦点を。精神障がいを抱えた親と子どもを絵本で支える「ぷるすあるは」」

連載

- ・季刊Be! (アスク・ヒューマン・ケア) ぷるすあるはが贈るイラストコラム「あなたの中の子どもと今のあなたへ」
- ・心とからだの健康 (健学社) 「こころの回覧板」 (不定期)

2.分担執筆

- ・外来精神科診療シリーズ,中山書店
精神療法の技と工夫(2017/1)「精神疾患をかかえた方の「子ども」に目を向けてください」
診断の技と工夫(2017/06)「地域で暮らす患者さんの家庭を、親子を応援するチームの一員になってください」

3.講演等 ()は参加者概数

- ・2017.9.25 soar campus～アートやデザインので社会にメッセージを伝えること～ (90)
- ・2017.9.20 仙台市精神保健福祉センター『精神的な問題を抱える家族がいる子どもへの支援』 (70)
- ・2017.8.30 草加保健所『感覚過敏の世界を探検』 (100)
- ・2017.8.24 朝霞市役所教職員向けゲートキーパー研修『子どものSOSに気づくために』 (20)
- ・2017.8.18 宇都宮市保健所『親の病気など家が落ち着かない子供たちの応援』 (50)
- ・2017.7.22 あみ結成20周年記念大会『子どものココロと家族のカタチ』 (50)
- ・2017.7.1 さいたま市男女共同参画週間『伝えるカードを作る会』 (35)
- ・2017.6.27 江北子育てネットワーク連絡会『こころの病を持つ親と子ども達への支援』 (30)
- ・2017.6.24 札幌医大&なかまの杜クリニック 子育て応援研究会・学習会「親がこころの不調をかかえている子どもへ応援できること」 (30)
- ・2017.6.6 東京都地域子育て支援機関研修 (200)
- ・2017.5.20 第3回精神障がいのある親とその子どもの支援に関する学習会 話題提供 (30)
- ・2017.5.18 Startup Hub Tokyo チェンジメーカー (20)
- ・2017.4.8 発達障害サイエンスカフェ『感覚の世界を探検!』感覚過敏ってなんだろう(絵本朗読) (150)
- ・2017.3.10 「こころの元気+」セミナー「子どもの立場の家族のリカバリーにつながる支援をどう広げていくか」チアキが報告者として参加
- ・2017.3.7 H28年度民生委員児童委員テーマ別研修Ⅲ『子どもの気持ちを知る』 (200)
- ・2017.3.4 埼玉県精神保健福祉士協会スクールソーシャルワーク委員会主催研修『精神疾患をかかえる保護者とその子どもへの対応—子どもの家庭環境を整えるために—』 (50)
- ・2017.3.4 アディクション看護学会研修『依存症事例対応への基礎編』 (5)
- ・2017.2.28 東京都母子保健研修『機能不全家族の中で育つ子どもの心理とその支援』 (350)
- ・2017.2.25 NPO法人レジリエンスSAFERプログラム『こころの不調をかかえた親をもつ子どものケア』 (45)
- ・2017.2.7 のぼ子ども家庭支援センター『心の病気を抱える家族の理解と支援』 (40)
- ・2017.2.4 藤沢市H28年度児童虐待防止講演会『こころの病を抱える親とその子どもたち—ボクのせいかも…』 (50)
- ・2017.1.31 足立区思春期管内ネットワーク連絡会『こころの病を持つ親と子どもたちへの支援』 (30)
- ・2017.1.25 千葉市保健師会『親が精神障がいの子どものきもち』 (50)
- ・2017.1.20 静岡県言語聴覚発達障害教育研究会『感覚過敏の私の世界—いろんな工夫とまわりができること』 (200)
- ・2016.12.14 横浜市青少年相談センター 若者相談支援スキルアップ研修『家のごちゃごちゃは自分のせい?と思い込んでいる子どもたの理解と援助』 (60)
- ・2016.12.8 埼玉県立大学保健医療福祉学部講義『学校精神保健と精神科医療—子どもたちの力を応援』 (25)
- ・2016.12.6 狭山保健所主催『親がこころの不調を抱えている子どもへの支援』 (80)
- ・2016.11.29 多摩総合精神保健福祉センター 薬物・アルコール等相談家族教室公開講座『ボクのことわすれちゃったの? お酒の飲み方に心配のある家庭で暮らす子どものケアについて』 (40)
- ・2016.11.18 千葉県家庭児童相談室中央地区研修会「精神疾患を抱える保護者と子供への支援」 (20)
- ・2016.11.16 アルコール関連問題市民公開講座『アルコール問題やこころの不調を抱えた家庭で育つ子どもの気持ち』メンタルヘルスセンター岡山 (75)

4.イベント、ブース出展

主催イベント

- ・2017.8.24 子ども情報2周年記念イベント『生きていい、夢見ていい、を応援するには』 (40)
- ・2017.3.13-19 子どものきもち絵本原画展part.2 (220)

ブース出展等

- ・2017.9.30 埼玉ダルク支援センター主催「薬物依存症者の回復を地域で支えるためのセミナー」(70)
 - ・2017.9.15-16 日本精神保健福祉士協会全国大会 in大阪 (1,300)
 - ・2017.8.26 リカバリーフォーラム (1,300) *和菓子屋さんの本棚さんプロデュース
 - ・2017.7.22 あみ結成20周年記念大会 (500)
 - ・2017.7.2 「フルリール」講演会 *和菓子屋さんの本棚さんプロデュース
 - ・2017.6.24-25 精神保健看護学会@札幌 (800)
 - ・2017.6.17-18 精神科診療所協会学術大会@東京 (500)
 - ・2017.4.9 発達障害サイエンスカフェ「感覚の世界を探検」(100)
 - ・2017.2.28 soarNPO法人設立記念パーティー(展示のみ)
 - ・2017.2.19 第1回アルコール・薬物家族支援フォーラムin東京(100)
 - ・2017.2.12 SVPまつり *和菓子屋さんの本棚さんプロデュース
 - ・2017.1.28 第8回埼玉くアルコール・薬物>依存症家族支援フォーラム
 - ・2016.11.25-26 日本子ども虐待防止学会@大阪(2,600+)
 - ・2016.11.19-20 LD学会@横浜(4,000)
 - ・2016.11.12-13 ピアスタッフの集い@横須賀(300)
- *「和菓子屋さんの本棚」さんはキッズパワーサポーターで出張出展くださっています。初回、和菓子屋の本棚で展示を行ったのが由来です。今期は、チャリティー文房具(冒険一筆箋)の企画・作成もありました。

5. 制作物

オリジナル制作

- ・「生きる冒険地図」

コラボ制作

- ・全国調査データベースを用いた児童虐待の予防・早期介入システムの開発(国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター)「こそだてたいへん.com」イラスト作成・デザイン協力
- ・埼玉県立精神保健福祉センター発行「みんなの知恵でこころをメンテ」トレイチラシ・マスコット作成
- ・ライト・イット・アップ・ブルー所沢発行「知らなかった!人によって『感覚』はここまで違う!」イラスト提供
- ・日本精神保健看護学会 第28回学術集会・総会 ポスター・チラシ作成
- ・NPO 法人回復はどこにでもある ロゴ作成

6. 定期刊行物

親がこころの不調をかかえたときの子どもと親のケアガイド(ぶるすあるはのチラシ) A3 判両面
2017年秋号 3,000枚/2017年夏号 3,000枚/2017年春号 7,500枚/2016年冬号 3,000枚

7. 受賞ほか

- ・FITチャリティラン2017 支援先団体へ選出
- ・ソーシャルポスター展(電通+日本NPOセンター)
- ・平成28・29年度子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)教材開発助成 子ども情報ステーション(精神障がいについて学ぶ教材)

【資料4】第3期の個別活動計画の達成度振り返り []の数字は目標値/必要値

事業部門

1. 情報サイト「子ども情報ステーション」の運営事業

ユーザー拡大

○・自然検索からの流入拡大[2016.9 約4,000→6,000アクセス/月] →2017年8月実績値 8,700アクセス
・被リンク[関連10サイト] →評価保留

○・トータルユーザー[2016.9 約2.3万→3万ユーザー/月] →2017年8月の実績値 30,619人ユーザー

コンテンツ拡充

○・子ども向けの相談先を集約した情報ページ新設 →公開

○・病気や障がいのページ →計13ページ公開。2018年3月までに代表的な精神疾患がおおよそ網羅される予定

△・体験談・取材記 →(体験談3本、取材記4本を公開。(継続課題))

・パートナー向けのページ →継続課題

△・動画 →10本の動画を新規公開(5本が絵本朗読、5本がそのほかの短編動画、子どもゆめ基金で作成)。再生回数
があまり伸びておらず届け方も課題。朗読動画DVDを活用しきれていない。新たな動画をPVプロボノチームと作成中。
(継続課題)

2. 心理教育絵本、テキスト等による普及啓発事業

△・絵本で届ける保健室あんしんプロジェクト(3回目まで実施し再評価。担当スタッフを1名配置。効果の見える化。
普及先学校選定の根拠づけ。支援者の方への報告を改善。個人だけでなく対団体へのアプローチ)

→再評価の上で、現在、プロジェクトとしては休止中。別紙参照。

一・啓発絵本「ボクは話せない…」の普及[10自治体] →実績、1自治体、1啓発団体。重点事業

○・学会・イベント等ブース出展[10回以上 出展スタッフの拡大]→15回 新たにプロボノ・ボランティア登録を行った

○・原画展またはそれに準ずるもの[1回開催] →1回開催

一・LINEスタンプ[新規1テーマ作成] →作成できず 凍結 (現在の2テーマを活用、販売価格を下げ普及を目指す)

3. セミナー等による課題の認知拡大、社会への普及啓発事業

△・講演は、団体の活動テーマに添ったものに絞って実施 →テーマを絞りながらも、第2期を超える30回、地域も幅広く声をかけてもらった。

4. 目的を同じくする他団体等との情報交換や他団体と連携した協働事業

△・学習会への参加。サイトでの情報発信、継続 →学習会へ参加。支援団体やイベントが増えており、情報収集や参加が追いつかない現状あり(増えていることは素敵なことです!)

管理部門

・寄付収入[第2期111万円→200万円/年] →166万/年間(継続課題)

寄付して下さった方への定期的なご報告 →季刊チラシの発行にあわせてご報告(継続課題)

法人・団体へのアプローチ(規定の設定と表示 担当スタッフ配置) →継続課題

社会課題と効果の見える化(活用事例の積み上げ、研究者との連携、団体のメッセージ強化) →継続課題

△・メディアへのアプローチ徹底 →メディア掲載件数は25件(第2期は22件) 今期のプレスリリース8回

○・サポーター会員拡大[計620→740人] →9月末現在 748名

△・バックオフィスの整備 →継続課題

△・認定NPO法人申請に向けた調査 →継続課題

まとめ

第3期は、事業内容を整理、普及啓発の実務には新たな人材を配置し、制作部門へ重点的に取り組むことを目標に掲げましたが、業務が拡散し制作に重点的に取り組むことができませんでした。新たな出版物を刊行することはできませんでした。根幹にある、団体のビジョンとロードマップを描く、それを実践する、財務基盤を固めることには遠くいたりませんでした。財務状況に関しては、獲得した助成金の支払いまでの期間が長いことに起因するキャッシュ不足が深刻で、これらは、今後の団体運営への反省点になりました。

そのような中で、情報サイトの運営、原画展の開催、イベント出展やセミナー講師、メディアを通じた発信などを通して、一定の実績をあげることはできました。サイトのユーザー数、サポーター登録数は、目標値を達成しました。

【資料9】第4期の活動計画・個別目標 [] は目標(値)

事業部門

1. 情報サイト「子ども情報ステーション」の運営事業

ユーザー拡大

- ・検索サイトからのアクセスを拡大 [8,000アクセス/月]
- ・ユニークユーザー累計 [2018年9月時点で100万人]

コンテンツ拡充

- ・病気や障がいのページ[5疾患を追加]、パートナー向け（継続課題）、精神保健福祉スタッフ向け・保育士向けページ作成[公開]

*定期的なコラム公開のシステムづくり、新規コンテンツ作成のパッケージ化

2. 心理教育絵本、テキスト等による普及啓発事業

- ・学会、イベント等ブース出展[10回以上・その内、初めての箇所は2回以上]
*重点ターゲット：精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカー
- ・発達凸凹のポスター、リーフレット（制作中）[汎用性のある形で公開]
- ・新規コンテンツ作成は、ニーズの高いものは、随時、積極的に行う
- ・コンテンツ販売チャンネルの拡大検討

3. セミナー等による課題の認知拡大、社会への普及啓発事業

- ・依頼による講演は新規受付を休止（原画展プロジェクトにあわせて、ツールの活用方法をまとめ、それを紹介するイベントを開催）

4. 目的を同じくする他団体等との情報交換や他団体と連携した協働事業

- ・学習会への参加[1回]。
- ・社会への啓発動画（制作中）[動画公開・連動するページ公開]
- ・研究協力 『精神障がいのある親と暮らす子どもへの「チーム学校」を基盤とした支援モデルの開発（進行中）』ほか

重点項目

FITチャリティーラン寄付金をもとにした、子どものきもち絵本原画展・関連プロジェクトの実施。

必要としているより多くの方へ、ふるすあるのはコンテンツを届けていくためには、事業を持続可能なものとし、普及力を高めることが必要です。本原画展は、企業スポンサーを得ることを目標とし、その足がかりとなるプロジェクトです。企業担当者向け説明会の開催、団体の活動、取り組む社会課題、アイデンティティをこめた図録の作成を行います。

管理部門

- ・個人の継続寄付 [第3期61万円→100万円/年]
継続的な寄付の方への定期的なご報告[季刊チラシ郵送に毎月のメールでの報告を追加]
(法人・団体へのアプローチ（原画展プロジェクトへ）)
- ・サポーター会員拡大 [計740→850人]
- ・バックオフィスの整備（継続課題）
- ・認定NPO法人申請に向けた調査（継続課題）